第５節　常盤構内（山口大学工学部構内遺跡）の調査

1．工学部総合研究棟（本館）改修工事（Ⅲ期）に伴う確認調査

調査地区　常盤構内

調査面積　約147㎡

調査期間　平成19年9月19日

調査担当　田畑直彦

調査結果　工学部総合研究棟（本館）改修工事（Ⅲ期）に伴い、Ⅰ・Ⅱ期工事と同様に建物改修工事と配管工事が計画された。掘削工事の平面形は建物沿いの幅約3.5m、長さ約36mの範囲に加えて、西北部に約4m×5.2mの張り出し部を持つ。工事では現地表下約150㎝まで掘削が行われたが、ほとんどが造成土の範囲内であった。ただし、張り出し部のA地点では、現地表下30㎝で地山である明黄褐色（10YR6/6）シルト、60㎝で岩盤［黄灰色（2.5Y4/1）、明黄褐色（2.5Y7/6）、淡黄色（2.5Y8/4）が縞状に混じる］を確認した。岩盤は北から南へ傾斜しており、A地点南端部では掘削底面で岩盤を検出した。

以上により、今回の調査区内においても平成15年度の調査[註1]・平成18年度の調査[註2]と同様に構内造成時の削平が著しいことが判明した。

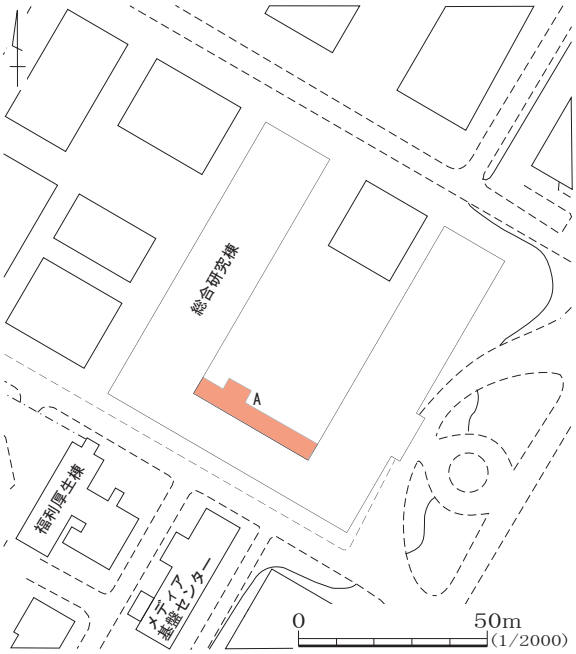

図 27　調査区位置図

写真 43　調査区全景（北西から）

写真 44　A 地点土層断面（北西から）

［註］

1）田畑直彦（2005）「第1章第5節　工学部本館改修工事に伴う立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』,山口

2）田畑直彦（2010）「第1章第4節　工学部総合研究棟改修工事（Ⅱ期）に伴う確認調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』,山口